



# 『萬葉集』を中心とする古代日本文学の比較文学的考察

人文科学系・言語文化学領域

奥村 和美

教授

OKUMURA Kazumi

博士(文学)(京都大学)

■研究キーワード 萬葉集、大伴家持、長歌、初学書、実用書

■主な所属学会 萬葉学会、上代文学会、美夫君志会、萬葉語学文学研究会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.d8fa8f0d184363f6520e17560c007669.html>



研究者総覧

## 研究概要

日本最古の和歌集である『萬葉集』を中心に、古代の日本文学に中国文学がどのように受容されたかを主に研究しています。現在は次の3つの視点で具体的な考察を進めています。

I 知識人の教養となった『千字文』『孝経』などの初学書や奈良朝に流行した初唐伝奇小説『遊仙窟』或いは書儀・書簡などの実用書・通俗書の利用の跡を具体的に探る。

II 大伴家持の和歌を同時代の太田池主・大伴坂上郎女の和歌や、家持が編纂に関わったであろう巻16の作品と比較対照することによって、家持歌の表現上の特質を探る。

III 平安時代初期の空海の文筆について、詩文や書簡を中心に検討する。原本系『玉篇』をはじめ空海が参照したであろう中国辞書(字書)や初学書・実用書及び類書に留意しつつ、上代と連続する空海の教養基盤を明らかにする。



萬葉歌碑

奈良市法蓮立花町 夢窓庵入口  
巻4-715 作者 大伴家持



桜井市忍阪 生根神社境内  
巻13-3331 作者未詳

## アピールポイント

これまで様々な機会に、一般の方々に向けて『萬葉集』の魅力をわかりやすくお伝えする講演を行いました。ご参考までにいくつか挙げます。

- ①「桜井市の記紀萬葉歌碑」  
(奈良女子大学社会連携センター公開講座 2017. 09. 24)
- ②「越の国の歌だより―書儀・書簡と家持の和歌―」  
(高岡市万葉歴史館「大伴家持歌をよむⅡ」 2018. 09. 08)
- ③「元号令和と萬葉集」 (2019年奈良県友会総会 2019. 06. 08)
- ④「萬葉集の橘の歌」 (奈良県立図書情報館公開講座 2019. 09. 22)
- ⑤「まほろばの国 やまと」 (大和ハウス工業・奈良女子大学 地域共生コラボレーションプログラム『万葉学習～万葉の庭で学ぶ～』第1回 2022. 04. 23)
- ⑥「古代の庭園―万葉集の歌から―」 (同上『万葉学習～万葉の庭で学ぶ～』第5回 2023. 08. 26)
- ⑦「大伴家持と太田坂上郎女」 (三郷町みさと万葉学会 2020. 07. 28)
- ⑧「聖徳太子の和歌と説話」 (三郷町みさと万葉学習会 2023. 07. 21)

※ 会の趣旨に応じて内容や時間など調整いたしますので、気軽にご相談ください。